

3

学生と父母のパネルディカッション

親と子の就職活動 (見守り)体験談

試行錯誤しながら就職活動をし、見事内定を得た4年生たち。そして、就活を見守られた4年生の父母。それぞれの立場から、体験したからこそ気づけたリアルなお話をしていただきました。

コーディネーター

パネリスト



就職課長補佐
遠藤 清



育友会長
小林 宏

文学部人文・ジャーナリズム学科4年女子の父



育友会副会長
金澤明子

文学部英語英米文学科4年女子の母



経済学部経済学科4年
菊地隆太

愛知県出身。特殊法人関連に内定。ゼミでは財政学を学ぶ。野球サークルに所属し活動。



経済学部経済学科4年
横島夏子

東京のホテルに内定。ゼミではテーマパークやホテル業界に関する研究を行う。



法学部法律学科4年
大村知里

静岡県出身。静岡県の金融系サービス企業に内定。ゼミでは憲法を学ぶ。オープンキャンパスなどで大学を案内する学生スタッフも務める。

就職活動どう進めた？

遠藤：学生の皆さんにお伺いします。昨年の今頃、何をしていましたか。

横島：私はアルバイトもあって、ゼミの論文執筆に一生懸命だったため、就活についてはあまり考える時間がありませんでした。

大村：私はその頃は公務員志望だったので、そのた

めの試験勉強をしていました。民間企業への就職活動は特にしていませんでした。

菊地：自分も入学当初から続けていた公務員試験の勉強をしていました。最終的には、公務員も民間も、どちらも目指すようになりました。

遠藤：公務員と民間企業の両方を目指すのは大変だと思いますが、時間の管理はどうされましたか。

菊地：今年の4～6月は企業の面接と公務員試験の勉強を同時に進めなければなりませんでした。1日に3、4社まとめて民間企業を回り、その翌日は丸1日公務員試験の勉強をするなど、メリハリをつけて進めました。大変でしたが自分が決めたことだったので頑張りました。

遠藤：横島さんは就職活動を振り返り、もっと早くからやっておけばよかったと思ったことはありましたか。

横島：私はホテル業界を志望していたため、ゼミではホテル業界やテーマパークについて研究をし、それがそのまま就職活動にもつながりました。初めから目指す業界が絞れていたのも、特に焦ることはなかったです。

遠藤：大村さんは元々公務員志望でしたが、いつから民間企業に進路を変えたのですか。

大村：大学入学時から卒業後は静岡に戻りたいとあっていて、その選択肢の一つとして公務員を考えていました。大学生活を送る中で、公務員以外でも静岡に帰る選択肢はあると考えるようになり、視野を広げて就職活動をしました。3年次の後期には民間企業を目指すことを決めました。

遠藤：静岡の企業はどのように探したのですか。

大村：学内企業説明会や、静岡U・Iターン就職サポートセンターが東京の目黒にあるので、そこで情報を得るようにしていました。

自分を知り、会社を知る

遠藤：自己分析はいつ頃から、どのように取り組みましたか。

横島：3年次の10月頃から取り組みました。私は大学入学前からホテル業界に就職したいと思っていたので、第二外国語もゼミの履修も、ホテル業界を目指すために選んできました。一方で、本当に自分がホテル業界に合っているのかということも知りたかったので、3年次の10月に学外の就職イベントに参加するなどして、相当考えました。自分を知るという意味では、私は自己分析よりも他己分析に力を入れました。

菊地：私は12月に就職課が開催した1泊2日の就職合宿に参加して、履歴書を書くための自己分析に取り組み始めました。他己分析も行っただけで人の意見も参考にしたんですが、親やアルバイト先の人、大学の仲間だけ

でなく、地元愛知県の幼稚園や小中高の友達など、いろんな人から話を聞きました。

遠藤：他人の意見から自己を知る“他己分析”においては相当な人数から話を聞いたのですか。

菊地：幼稚園、小中高と年代ごとに5名くらいずつで、合計30人近くから聞きました。LINEや電話で「俺の長所と短所を、傷ついても構わないから言ってよ」と。就活中の相手とはお互いに「〇〇のこういうところが長所で、こういうところが短所だと思う」と正直に言い合いました。

遠藤：へこむことはありませんでしたか。

菊地：全然そんなことなく、面接で「あなたの弱みは何ですか」と聞かれたときに、エピソードも含めてそのまま使えたのでよかったです。

遠藤：大村さんはいかがですか。

大村：私は公務員志望だったのを途中で民間企業に切り替えたので、ゆっくり自己分析している時間もなく、企業を調べる中で自分がどういう風に生活していきたいかということを考えていきました。

遠藤：金澤さんと小林さんは、親として自己分析の手伝いをしましたか。

金澤：どんな仕事をしたいのか、娘の考えがぼんやりとしていたので、そこを明確にするために「どんなことやっていきたいの」「どんな仕事をしたいの」と少しずつ質問を投げかけました。雑談の中で、方向性を見いだせたらいいなと思っていました。

小林：私は娘に関心を持ちすぎでして、過干渉になるくらいで、口を出してはよく娘と言い合いになりました…。最終的には、就職課に相談に行きなさいとアドバイスしました。就職課のおかげで、就職活動における娘の視野は広がったと思います。

遠藤：過干渉ということですが、お嬢さんには反発されましたか。

小林：小さいころから過干渉で、娘は慣れっこですから、またかといった感じです（会場笑）。

親子の程よい距離感

遠藤：大村さんと菊地さんは独り暮らしですが、就職活動において親と頻繁に連絡を取られましたか。

大村：私の両親は、中高の部活や大学を選ぶ際も、私の意思を尊重してくれました。ですので、就職に関しても親からあれこれ言われることはありませんでした。常日頃から、どんな企業を受けているかは連絡していましたし、就職活動で悩んだときには連絡を取っていました。

菊地：自分はネガティブな性格で考えすぎてしまうところがあります。就職活動でよくよと考えすぎてしまった時には親に意見を聞いたりしていました。逆に、



親からあれこれ就職について聞かれることはなく、いい距離感だったと思います。

遠藤：一緒に住んでいる横島さんはどうですか。

横島：私の両親は今の就職についてはあまりわからないので、放任主義というのではなく、こちらが相談しない限り余計な口出しはされませんでした。

交通費を上手にやりくり

遠藤：大村さんは静岡へのUターン就職活動でしたが、金銭面は大変でしたか。

大村：想像以上に、東京と静岡を行き来する回数が多かったです。急な面接の呼び出しもあり、交通費と時間の管理が大変でした。

遠藤：親からは資金的な援助がありましたか。

大村：私は奨学金やアルバイト代でやりくりして、親からの資金援助は一切受けませんでした。交通費は高速バスを利用して節約しました。親から心配されることもありましたが、負担を掛けたくはなかったので工夫してやりくりしました。

遠藤：最近では自治体によって交通費を補助してくれるところもあります。例えば新潟県では交通費及び宿泊費の半額、1万円を上限に、年度内3回まで補助する制度があります。そのように補助を出す自治体は他にもあります。各自治体のホームページや“LO活”のホームページに情報が出ていますので、会場の皆さんも調べてみるといいでしょう。菊地さんは交通費の負担は大きかったですか。

菊地：自分は東京都内の企業を回ることが多かったのですが、交通費を節約するために「東京メトロ24時間券」を利用しました。使い始めから24時間、東京メトロなら乗り降り自由です。600円とお得なので、プチ情報としてお子さんにお伝えください（会場笑）。

エントリーから企業説明会へ

遠藤：3月1日になると、リクナビ、マイナビといった就職情報サイトがオープンして、私は御社に興味がありますと意思表示する“エントリー”を行います。横島さんは、何社にエントリーして、そのうち何社面接に進みましたか。

横島：私はエントリーが20社、そのうち説明会に参加して、自分のイメージと違うところを除いて書類を提出したのが11社。そこから面接に進んだのが9社です。

遠藤：イメージと違うとは、どのように違ったのですか。

横島：宿泊や食事で利用した際に見たホテルマンと、説明会で出会った方々にすごくギャップを感じる企業がありました。私は「人との出会いを大事にできる」ということを企業選びの軸に据えていました。もちろんゲストとの出会いも大切ですが、一緒に働く人との出会いも大事にしたかったので、自分が違和感を感じる企業は選考には進みませんでした。

遠藤：大村さんは静岡での就職活動ですが、どのように企業研究を進めたのですか。

大村：東京で静岡の企業による合同説明会も開催されたので、そういうものに参加しました。また専修大学のサテライトキャンパスで静岡の企業によるセミナーが開催され、そこにも参加しました。内定をいただいたのはそこで出会った企業です。

遠藤：都内や大学で会社説明会があると、時間もお金も節約できますよね。大学が主催するものは案内させていただいていますが、それ以外の開催情報はどうやって入手しましたか。

大村：静岡U・Iターン就職サポートセンターのサイトに登録すると、メールでイベント開催のお知らせが届きます。目黒の事務所では事前に予約すれば、面

接の練習も対応してくれますので、大学の就職課とともに利用していました。

いよいよ面接本番

遠藤：大村さんはいつ頃から面接がありましたか。

大村：初めて面接の連絡がきたのは3月下旬でした。採用選考活動解禁日前なので、人事の方からは「面接ではなく、大村さんのことをもっと知りたいので、履歴書を見ながらお話をしましょう」と言われました（会場笑）。1日で2回、別々の人事の方とお話して、4月に入ってもう1回、また別の人事の方と会い、その場で内定をいただきました。前年の情報や、先輩から聞いていたスケジュールよりも早く進みました。

遠藤：横島さんは最初の面接はいつ頃でしたか。

横島：3月中旬です。大村さんと同じで、スケジュールが早まっていると感じました。特に今年はゴールデンウィークが10連休だったので、ホテル業界としてはその前に内定を出したいという意図があったようです。4月上旬は土日関係なく、毎日面接がありました。

遠藤：1日に2社以上のときもありましたか。

横島：私はメンタルがあまり強くないため、1日2社はきついので、それは避けるようにスケジュールを調整しました。

遠藤：菊地さんはいかがですか。

菊地：自分は2月の下旬に最初の面接があり、そこで自己PRを3分間してくださいと言われて困惑しました。でも、就職合宿で自己PRをしっかりと作っていたので何とかできました。

遠藤：ご父母のお二人は、お子さんの面接の練習に付き合うなどしたことはありますか。

小林：娘の受けた会社で、30秒のプロモーションビデオを作って送れという課題があり、そのときは娘がプレゼンするのを、スマホで録画する手伝いをしました。

遠藤：撮り直しもありましたか。

小林：テイク8くらいまでありました（会場笑）。

金澤：娘がこういうことをエントリーシートに書いてもいいのかなと悩んでいるようなときは、私の考えを伝えたりすることはありました。

女性として、働き方をどう選んだ

遠藤：横島さんと大村さんは、企業を見るときに女性として気にしたことはありますか。

横島：ホテル業界は夜勤もある業界なので、実際にどういうスケジュールで働くのかは気にしました。説明会の参加者は女性の方が多いくらいで、企業側もこちらが聞かなくてもその点を説明されることが多かったです。

大村：将来、結婚して子供が生まれても、一生働きたいと思っています。今はほとんどの企業で産休や育休の制度が整っています。その制度が実際に使われているのかなど、社員の方の生の声を聞いて自分の将来像をイメージしてみました。

就職活動を通しての学び

遠藤：どういう基準で会社を選びましたか。

横島：私は企業の規模は気にせずに受け、大手、中堅、ベンチャーのようなところから1社ずつ内定をいただきました。いざ内定をいただいてからどこを選ぶか考えたとき、今後もしも転職をせざるを得ない状況になった際どちらに進む方がより自分の経験値を高められるかを考えました。また人を大事にする会社という視点でも選びました。

遠藤：就職活動を通して成長したところはありますか、大村さんいかがでしょう。

大村：プラス思考に物事を考えられるようになりまし



た。来年の4月から社会人として働くことになりますが、そのために資格の勉強を頑張っておこうという風に、自然と前向きに考えられるようになっていきます。

遠藤：菊地さんは、どんな社会人になりたいですか。

菊地：自分はネガティブで慎重なところがありますが、そこを克服して、常に挑戦して信頼されるような社会人になりたいです。周りから信頼されている父のような社会人になれたらと思っています。

親として、こんな風に関わるといいかも

遠藤：最後に、ご父母のお二人にお伺いします。就職活動を見守った先輩として、これから就職活動に臨

む親御さんへのアドバイスをお願いします。

金澤：3点お伝えしたいと思います。子供と親のペースがずれた場合は、子供に合わせてあげるということが大事です。そして、子供が話を聞いてほしいというときは聞いてあげ、納得できたときは親も一緒に喜び、それを自信につなげてあげられたらいいと思います。最後に、就活が終わり落ち着いたら、就活が社会に出てどのように生かせるか、話し合うことで、本人の気づきにつながったらいいます。

小林：娘の就活を見てきて、本当に大変だなと実感しました。そんな中で、娘の活動に「関心を持つ」そして「他と比較しない」ということを意識して関わっていくことが大切なのではと感じています。